



# JAMS NEWS

日本経営システム学会

<http://www.jams-web.jp/>

## 日本経営システム学会 第59回全国研究発表大会のご案内

会員の皆様には、時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、日本経営システム学会第59回全国研究発表大会が2017年10月28日(土)～30日(月)に星城大学(愛知県東海市)にて開催されます。同時開催される国際会議ICBI2017とは相互聴講可能で、懇親会は合同になります。30日(月)には、名古屋市の栄地区から見学バスツアー(予定:トヨタ自動車と名古屋城)が用意されています。会場は、名古屋駅より名古屋鉄道常滑・河和線特急電車で25分程です。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### 記

- 開催日: 2017年10月28日(土)～30日(月) ※JAMS ICBI 2017と同時開催(相互聴講可能)  
 開催場所: 星城大学 〒476-8588 愛知県東海市富貴ノ台2丁目172番地 <http://www.seijoh-u.ac.jp/>  
 連絡先: 実行委員長 野村 淳一(星城大学) [nomura@seijoh-u.ac.jp](mailto:nomura@seijoh-u.ac.jp)  
 主催: 日本経営システム学会  
 協賛(予定): 経営情報学会、社会情報学会、情報システム学会、電子情報通信学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本経営工学会、日本情報経営学会、日本心理学会、日本知能情報フレンジイ学会、日本人間工学会、日本品質管理学会  
 統一論題: 「第4次産業革命における経営システムの役割」  
 基調講演: (株)NTTドコモ 法人ビジネス本部 IoTビジネス部 IoT営業推進担当部長 仲田 正一 氏  
 参加費: 会員 5,000円、学生会員 3,000円、協賛学会員・同学生会員はそれぞれ会員・学生会員と同額、非会員 6,000円、非会員学生 4,000円、(当日支払は各1,000円高)  
 懇親会費: 会員 5,000円、学生会員 3,000円、協賛学会員 5,000円、非会員 6,000円(当日支払各1,000円高)  
 バスツアー参加費: 会員、非会員、学生の区別なく、5,000円(入場料、昼食込)  
 国際会議 ICBI2017 Proceedings (USB) 代金: 会員、非会員、学生の区別なく、3,000円。購入ご希望の方は、当日、受付にお申し出下さい。  
 昼食: 大学内の食堂・コンビニは28日、29日共に閉店です。大学から徒歩4分ほどのところにコンビニがあり、徒歩10分圏内にいくつかの飲食店があります。なお、お弁当(1,000円)の事前予約を承ります。お弁当をご希望の方は、参加費と一緒に振込みください。  
 宿泊: 会場には名鉄名古屋駅から約30分で到着しますので、多数のホテルがある名古屋市内の名古屋駅や金山駅周辺、栄エリアのホテルをご利用されると便利です。また、会場近くの太田川駅・名和駅から徒歩5分圏内にも数軒のホテルがあります。※近年、外国人観光客増加により名古屋市内・東海市内ともホテルの予約が難しくなっております。各自で早めの手配をお願いいたします。  
 発表申込: 発表申し込みは、学会ホームページ <http://www.jams-web.jp/>の発表申込フォームから申し込みいただくか、ダウンロードした申込書に必要事項を記入の上、メール添付で学会事務局 E-Mail: [keieisys@jams-web.jp](mailto:keieisys@jams-web.jp)へ、8月25日(金)までに送信してください。本JAMS NEWSの発表申込書を学会事務局宛 Fax 03-3371-5185 にご送付いただいても構いません。  
 原稿締切: pdfおよびword入稿または郵送にて、9月29日(金)まで(厳守)、学会事務局宛又は第59回大会発表原稿入稿フォームから御投稿ください。

参加申込：次号 JAMS NEWS に同封の振込用紙または HP の振込み方法を参考にして 10 月 20 日（金）までに上記金額をお振込みください。期限後に振込みされた方は、振込控えまたはコピーをお持ち下さい。なお、国際会議に参加される方は、第 59 回全国研究大会の参加費は不要です。

### ■会場設備について

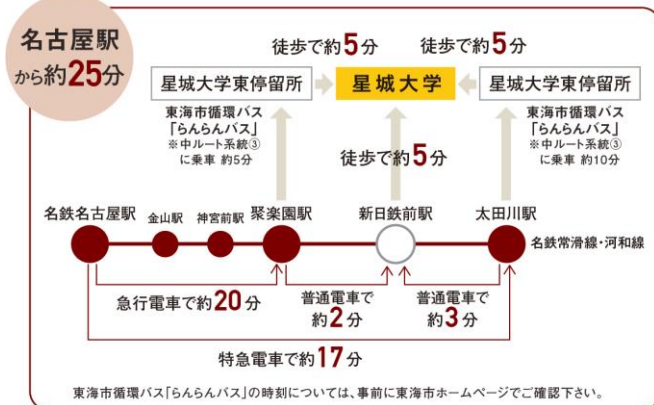
全ての発表会場に PC(Windows, MS-Office)とプロジェクタが設置されていますので、原則として会場の設備をご利用下さい。データは USB メモリに入れてお持ち下さい。特殊なソフトをご使用の場合は、ノート PC をお持ち込みも可能ですが、コネクタ接続など準備に時間がかかりますので、ご注意下さい。

### ■大会会場へのアクセス

名鉄常滑・河和線「新日鉄前駅」下車、徒歩 5 分 交通アクセス <http://www.seijoh-u.ac.jp/access/>

#### 新日鉄前駅への経路

- ・名鉄名古屋－（名鉄 常滑・河和線 特急）－太田川－（普通電車に乗換・一駅戻る）－新日鉄前
  - ・名鉄名古屋－（名鉄 常滑・河和線 急行）－聚楽園（しゅうらくえん）－（普通電車に乗換・一駅進む）－新日鉄前
  - ・中部国際空港－（名鉄 空港線・常滑線 特急）－太田川－（普通電車に乗換・一駅進む）－新日鉄前
- ※新日鉄前駅より大学まで、150 段超の階段があります。キャリーバッグをお持ちの方など、階段の利用が困難な場合は、隣駅の「太田川駅」からタクシーを利用されることをお勧めします（タクシーで会場まで約 5 分、千円強）。



### ■学生研究発表優秀賞について

当学会では、学生セッションの研究発表を審査して優秀な発表には「学生研究発表優秀賞」を授与しています。学生であれば、正会員・学生会員を問わず、学生セッションの研究発表は審査の対象となります。ただし、下記の点にご留意下さい（もし、ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい）。

- ・学生セッションの発表は、正会員（一般的には指導教員）との連名とし、ファースト・オーサーは学生とします。
- ・学生セッションでの単独発表は、正会員の学生に限ります。
- ・学生研究発表優秀賞の受賞対象者は、単独発表、連名発表のファースト・オーサーの学生のみとします。
- ・学生セッションの発表原稿は、会員の種別を問わず 2 頁とします。

### ■学会発表に関する原則について

当学会では、研究発表大会をスムーズに運営するために、口頭発表に関して「学会発表に関する原則」（学会ホームページ <http://www.jams-web.jp/information/prerule.html>）に従って運営しています。口頭発表を申し込まれる前にご確認ください。なお、この原則は、大会委員会および大会実行委員会により運用されます。不明な点がございましたら、学会事務局へお問い合わせください。

## JAMS ICBI 2017 国際大会開催のご案内

ハワイで 3 年に 1 度の開催が恒例となっておりました国際大会 ICBI(International Conference for Business and Information)を、今年度は愛知県で、ICBI2017 として開催します。同時開催の第 59 回全国研究発表大会（国内大会）とは相互聴講可能となっております。また、国際大会の参加費を支出された方は、国内大会の参加費は免除になります。多数ご参加ください。

開催日：2017年10月28日～30日(予定)

開催場所：星城大学(愛知県東海市富貴ノ台二丁目172番地)

※JAMS第59回全国研究発表大会と同時開催、その講演論文集もお渡しします。

主催：日本経営システム学会

協賛：経営情報学会、社会情報学会、情報システム学会、電子情報通信学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本経営工学会、日本情報経営学会、日本心理学会、日本知能情報フレンジイ学会、日本人間工学会、日本品質管理学会

会議テーマ：The Role of Management Systems for the Evolution of Industry 4.0

基調講演：IoT - Internet of Things or Internet of Threats? : Implication of cybersecurity management in the modern connected world

青山友美氏(名古屋工業大学 社会工学専攻経営システム分野)

スケジュール：10月28日(土)受付、研究発表、懇親会(第59回全国研究発表大会と合同)

10月29日(日)基調講演、研究発表、名古屋へ移動して夕食会(昼は弁当あり)

10月30日(月)カンファレンスツアー(名古屋市栄から出発、昼食つき)

カンファレンスツアー：トヨタ自動車工場、名古屋城博物館見学バスは、30日の朝、名古屋市栄地区から出発の予定です。また、別の会社の工場と博物館明治村を見学するツアーも企画しております。

宿泊：星城大学付近には適当なホテルがありません。また、29日の夕食会は名古屋ガーデンパレスを予定していますので、なるべく名古屋市内にご宿泊ください。名古屋ガーデンパレス(私学共済)、アイリス愛知(地方職員共済)、KKR ホテル名古屋は、栄地区かその隣接ですのととても便利です。少し離れますが、公立学校共済(私学共済と相乗り)のルブラ王山、ホテルメルパルク名古屋などの公的旅館も便利です。他にも、一般のホテルが多数ありますので、ご自身でご予約ください。

発表の条件：経営・システム・情報・管理に係わる内容で未発表のもの。

採択通知予定：2017年7月30日。採択論文の口頭発表者は事前参加登録をしなければならない。事前参加登録がない場合は発表をキャンセルする。ファーストオーサーとしての口頭発表は、1人1件までとする。

予稿原稿締切：2017年8月31日。IJAMSの書式で作成する。刷り上がり4頁以上。予稿書式は(<http://www.jams-web.jp/en/ijams.html>)参照。予稿はPDF文書として、大会当日にUSBメモリーで参加者に配布する。

事前参加登録締切：2017年8月31日(予定)

大会運営委員長：小田哲久(本学会前会長、愛知工業大学)

大会実行委員長：柳田義継(横浜商科大学)

実行委員：佐藤修(東京経済大学) 佐々木桐子(新潟国際情報大学) 寺本佳苗(就実大学) 永松陽明(横浜国立大学) 立川大和(リュミスリヒトデザイン) 湊宣明(立命館大学) 今野 勤(神戸学院大学) 山田啓一(中村学園大学) 野村 淳一(星城大学)

問い合わせ先：jams.icbi2017@gmail.com ※詳細は決定次第学会Webサイトにてお知らせします。

---

## JAMS 学生研究発表優秀賞について

---

表彰委員長 川中 孝章

第58回全国研究発表大会(於：東京経済大学)終了後、表彰委員会を開催し、慎重に表彰候補者を選考しました。その後、理事会の審議を経て下記3名が学生研究発表優秀賞に決定しましたので報告致します。

1. 「Study on effect of inbound open innovation on firm performance in Japan」 王 雪(東北大学)
2. 「購買チャネルとメディア接点の組合せによるマルチチャネル顧客の潜在クラスセグメンテーション」  
中野 暁(筑波大学)
3. 「時間枠付き多品目在庫運搬経路問題に対する列生成法」  
三村 健斗(東海大学)

---

## 2016 年 学会賞 論文奨励賞について

---

### 【学会賞】

受賞者：湊 宣明（立命館大学）

対象業績：Nobuaki MINATO, “Why Does a Company Fail to Manage a Corporate Scandal?”, International Journal of Japan Association for Management Systems, Vol. 8, No.1, pp.17-26(2016)

受賞理由：当該論文は、不祥事が企業に与える複雑な要因間の関係・構造や時間的な影響の度合いについて、システムダイナミクスを用いた簡潔なモデルによる記述を試みた上で、モデルに基づくシミュレーション及び実証分析により、企業の不祥事問題の根本的な原因を同定・解明しようとする意欲的な研究である。これまで、企業の不祥事に関しては、経営学・会計学・法学など、さまざまな研究分野において多くの研究が行われてきた。しかしながら、こうした多くの既存研究においては、当該論文でも指摘されているようにデータの収集が必ずしも容易ではなく、定性的な研究や財務データによる定量的な研究は多いが、複雑な要因間の構造を分析した上での定量的な分析研究は少なかった。当該論文は、企業の不祥事に関連する要因を明確にした上で、シミュレーションによる顧客行動のパターンを提示するとともに、企業の不祥事と売上高の関係を高い精度で予測している。定性面と定量面の両側面から高く評価できる研究であり、日本経営システム学会「学会賞」にふさわしい研究論文であると判断する。

### 【論文奨励賞】

受賞者：António Oliveira Nzinga RENÉ（大阪大学）

対象業績：António Oliveira Nzinga RENÉ, Nobuyuki UENO, Yuki TAGUCHI, Koji OKUHARA, “An Available Solution for Multi-period Production Planning with Constraints Based on Shapley Value”, International Journal of Japan Association for Management Systems, Vol. 8, No.1, pp.47-56 (2016)

受賞理由：当該論文は、協力ゲーム理論の1つであるシャープレイ値を多期間生産計画問題に応用した論文である。多期間を考慮した生産計画においては、需要変動、部品在庫の品切れ、納期遅れ等によるさまざまなリスクが想定される。これまでは、こうした多期間の生産計画問題に対して、リスクの程度を確率的に捉えるアプローチによる研究が多かった。当該論文では、シャープレイ値を導出する式が等価な2次計画に置き換えられる性質を用いて、生産計画問題に不可欠な制約条件を絞り込むことができるように拡張した新たなアプローチを提案している。その上で、生産制約がシャープレイ値の2次形式で与えられたモデル、個人の合理性を考慮せずにシャープレイ値および生産制約が使用されたモデル、そして意思決定者により制御される重みが考慮されたモデルの、3つのモデルが提案されている。さらに、各期間にペナルティの概念を導入して、それを定量化することにより、各期間の生産量を効率的に予測できることを数値例で示している。複雑な多期間の生産計画問題に挑戦した意欲的な研究として高く評価できるとともに、今後の研究の発展性も期待でき奨励に値すると認められることから、日本経営システム学会「論文奨励賞」にふさわしい研究論文であると判断する。

---

## 2016 年度第 4 回理事会のまとめ

---

- I. 開催日時：2017年3月11日（土） 14:30～16:30
- II. 開催場所：明治大学 駿河台キャンパス 研究棟 4F 第2会議室
- III. 出席者：浅井、椎原、山下、石田、今井、金子、川中、今野、佐々木、鄭、柳田、板倉、塩出、野々山、松岡（監事）石井、松丸（オブザーバー）若尾、東海、成川、永松（敬称略）  
理事会の開始に先立ち、小田会長が急病のため理事会を欠席され、椎原副会長に委任されたことが報告された。そして、役員選挙による来期の常任理事が紹介され、慣例に従って、東海氏、成川氏、永松氏がオブザーバーとして理事会に出席することが了承された。  
また、元会長の西川智登名誉会員のご逝去が報告され、黙祷をささげた。
- IV. 審議事項
  1. 2016年度第3回理事会議事録の確認(椎原)：2016年度第3回理事会議事録が報告され、承認された。
  2. 会員の入退会について(椎原)：入退会の状況について説明がなされ、承認された。これにより、2017年3月10日現在、正会員521名、学生会員127名となった。

3. 第 58 回全国研究発表大会の準備状況について(若尾)：第 58 回全国研究発表大会（開催校：東京経済大学、開催日・開催場所：2017 年 5 月 27 日（土）、28 日（日）、統一論題：IoT と経営システム）の準備状況についての説明がなされ、承認された。
4. 第 59 回全国研究発表大会の準備状況について(佐々木)：第 59 回全国研究発表大会（開催校：星城大学、開催日：2017 年 10 月 28 日（土）、29 日（日））の準備状況についての説明がなされ、承認された。また、ICBI2017 との同時開催の方向で大会準備を調整しているとの説明がなされ、承認された。
5. ICBI2017 について(椎原、柳田)：第 59 回全国研究発表大会との同時開催と佐藤先生から柳田先生への実行委員長への交代について説明があり、了承された。その後、開催計画について説明がなされた。全国大会との同時参加の場合の参加費や発表申し込みスケジュール、会員および非会員へのお知らせの方法などについて議論された。また、参加者を増やすために、従来の ICBI の参加費などにとられることなく改めて検討することが要請された。最終的には実行委員長に委ねることとし、必要に応じて電子メールによる審議を行うことが了承された。
6. 表彰に関わる規程類の改正について(川中)：継続審議となっていた会則への追記と表彰規定から表彰細則への変更について説明があった。表彰細則の第 3 条の受賞資格について議論があり、一部修正をしたうえで、次回の理事会で最終決定し総会に諮ることが了承された。また学会賞・論文奨励賞選考ワーキンググループ運用内規の改正案についても説明があり、文言の一部を修正することで了承された。規定委員会による確認後、表彰委員会にて決定することになった。必要に応じて電子メールによる審議を行うことが了承された。
7. 高齢者への会費減免について(椎原)：継続審議となっていた高齢者への会費減免について提案があった。高齢者への会費減免もしくはシニア会員の制定について具体的に進めることが確認された。組織委員会で、具体的な年会費、サービス等が検討されることになった。
8. 総会および評議員会について(椎原)：総会と評議員会の開催通知の案について説明があり了承された。総会で諮る最終的な議案等については、総務委員長に一任された。

#### V. 報告事項

1. 第 19 期役員選挙結果について(松岡)：被選出常任理事の信任投票と会長選挙の結果について報告がなされた。
2. 会員意識調査アンケートについて(椎原)：名簿調査と共に実施された会員アンケートの暫定報告がなされた。
3. 第 57 回全国研究発表大会収支決算報告(佐々木)：大会の収入決算が報告された。剰余金ならびに大会用の備品が学会に寄贈されることになった。
4. 第 57 回全国研究発表大会「学生研究発表優秀賞」について(川中)：第 57 回全国大会における学生研究発表優秀賞の受賞者が報告された。なお、学生研究発表優秀賞の受賞者の Web での掲示期間について、個人情報保護の観点から検討することが確認された。
5. 総会資料の作成について(椎原)：各種委員会の委員長等に今年度の活動報告と来年度の活動計画、ならびに予算書の作成依頼をすることが報告された。総会資料の作成の関係もあり、締め切り厳守で提出いただけるように要請された。
6. その他(柳田)：会員名簿作成の進捗状況について、報告がなされた。

## 2016 年度第 5 回理事会のまとめ

- I. 開催日時：2017 年 5 月 13 日（土） 13:00～16:30
- II. 開催場所：東海大学 高輪キャンパス 1 号館 3 階 1-3 会議室
- III. 出席者：小田、浅井(Skype)、椎原、山下、石田、金子、川中、今野、佐々木、鄭、田畑、村山、毛利、柳田、佐藤、松岡、塩出、西口、島田、水上（監事）松丸（オブザーバー）若尾（敬称略）
- IV. 審議事項
  1. 2016 年度第 4 回理事会議事録の確認(椎原)：2016 年度第 4 回理事会議事録が報告され、承認された。
  2. 会員の入退会について(椎原)：入退会の状況について説明がなされ、承認された。これにより、2017 年 5 月 13 日現在、正会員 515 名、学生会員 117 名となった。
  3. 58 回全国研究発表大会の準備状況について(若尾)：58 回全国研究発表大会（開催校：東京経済大学、開催日：2017 年 5 月 27 日（土）、28 日（日）、統一論題：IoT と経営システム）の準備状況および発表件数 74 件（一般 50 件、学生 20 件）、チュートリアルセッション（ERP を利用した大学教育）、収支予算案についての説明がなされ、承認された。また、公益財団法人日本生産性本部の記者から大会参加の

要望があったことが報告された。大会参加および取材の可否、参加費等については、実行委員長に一任することになった。

4. 59回全国研究発表大会の準備状況について(佐々木)：第59回全国研究発表大会（開催校：星城大学、開催日：2017年10月28日(土)、29日(日)、統一論題：第4次産業革命における経営システムの役割(仮)、発表申込：2017年8月25日、原稿締切：2017年9月29日)の準備状況についての説明がなされ、承認された。
5. ICBI2017の準備状況について(柳田)：大会スケジュール案（開催日程：2017年10月28日～30日、発表申込：2017年7月31日、原稿締切：2017年8月31日）が承認され、具体的な準備については、実行委員長に委ねることが了承された。また、第59回全国研究発表大会とICBI2017の両方に参加する場合の参加費については、会長、大会実行委員長、国際大会実行委員長に一任されることになった。
6. 表彰に関わる規程類の改正について(川中)：継続審議となっていた会則、表彰規定、学会賞・論文奨励賞選考ワーキンググループ運用内規、学生研究発表優秀賞表彰内規の改正について説明がなされた。一部修正のうえ、会則と表彰規定の改定を総会に諮ることが了承された。最終的な文案は、会長と表彰委員長に一任された。また、内規については、表彰委員会の要請により理事会での確認日を改定・施行日とすることになった。
7. 2016年「学会賞」「論文奨励賞」受賞候補者推薦の件(川中)：学会賞と論文奨励賞について、それぞれの対象業績と受賞候補者の推薦案が提出され、承認された。
8. 2016年度決算・2017年度予算について(田畑・松丸)：2016年度収支決算が報告された後に、監査報告が行われ、承認された。また、2017年度収支予算案について説明があり承認された。総会に諮ることが了承された。修正の必要が生じた場合には、会長と財務委員長に一任された。
9. 第38回通常総会議案書について(椎原)：総会の議案書の案が配付され、内容および体裁の確認と修正を行った。今後の修正については、会長と総務委員委員長に一任することになった。
10. 総会での役割分担について(椎原)：司会は実行委員会の佐藤先生にお願いすることになった。そして、総会の議長は総務委員会で調整することになった。また、第1号議案および第3号議案の説明は椎原先生、第2号議案と第4号議案の説明は田畑先生が担当することになった。第5号と第6号議案の説明は規定委員会で調整する。なお、議事録署名人2名と書記2名の調整については、会長に一任された。
11. 研究部会の継続確認について(椎原)：主査が退会した研究部会については、幹事に継続の意思を確認したうえで、最終的な判断は会長に一任することになった。
12. skypeによる理事会参加について(小田)：今回の理事会ではskypeによる参加を認めたが、前回と同様に会議の進行に問題がないことが確認できた。セキュリティにも特に問題がないものと考えられる。他学会ではすでに正式に導入している団体もあり、地方の役員も理事会に参加しやすい環境を整えるために、当学会でも定常的に利用できるようにしたいとの提案があり、今後も検討を続けることになった。

#### V. 報告事項

1. 会員意識調査アンケートについて(小田)：学会サービスについての多様な会員のニーズを確認することができた。詳細な内容は、大会で報告される。
2. 次期役員および評議員について(塩出)：名誉会員、常任理事、理事、各種委員会委員長、および評議員の選任状況が説明された。役員名簿は、総会で配付されることが確認された。

---

## ヒューマン・リソース研究部会のお知らせ

---

開催日予定日時：2017年8月5日(土) 15:00-17:30

開催場所：日本大学 生産工学部 30号館5F 小田部研究室

発表予定者：テーマおよび発表予定者につきましては、学会HPをご覧ください。

連絡先(幹事)：金子 勝一(山梨学院大学) Tel.055-224-1337 E-mail:shoichi@ygu.ac.jp

---

## 経営モデル研究部会のお知らせ

---

開催日予定日時：2017年8月8日(火) 17:00-19:00

発表予定者：調整中

開催場所：東海大学 高輪キャンパス 1号館3F1308教室

連絡先：田畑 智章（東海大学） Tel.03-3441-1171 E-Mail:tabata@tokai-u.jp  
金子 勝一（山梨学院大学） Tel.055-224-1337 E-mail:shoichi@ygu.ac.jp

## 経営品質科学研究部会のお知らせ

開催日予定日時：2017年9月1日（金）～9月2日（土）

◇第1日目9月1日（金）15：30～19：00 ◇第2日目9月2日（土）9：30～13：00

開催場所：釧路公立大学 1階107教室

〒085-8585 北海道釧路市芦野4丁目1番1号 TEL0154-37-3211（代）

釧路公立大学までのアクセス：<http://www.kushiro-pu.ac.jp/aboutus/overview/access.html>

統一論題：北海道におけるビジネス・クオリティとサステナビリティ

発表予定者：テーマおよび発表予定者につきましては、学会HPをご覧ください。

連絡先：金子 勝一（山梨学院大学） Tel.055-224-1337 E-mail:shoichi@ygu.ac.jp

## 入会者リスト

(2016.9.4～2017.5.25)

### 1. 正会員入会者

氏名	所属	氏名	所属
渡邊 大介	明治大学 大学院	山室 達雄	ネクストロジスティクス
岩田 遼	(株)ドゥ・ハウス	進藤 美希	東京工科大学
中野 暁	(株)インテージ	曾我 寛人	釧路公立大学
高島 幸成	千葉工業大学 附属研究所	國分 一典	
堀間 洋平	山口大学 大学院	植松 隆史	(株)Pro-SPIRE
八木 英一郎	東海大学	江口 正人	首都大学東京
佐竹 義美	山形大学	平井 直樹	立教大学 大学院
渡辺 利幸	パナソニック(株) AVC ネットワークス社	山口 平八郎	NTT コミュニケーションズ (株)
難波 和秀	高知工科大学	近藤 文代	筑波大学
永井 希依彦	帝京大学	近藤 伸和	(株)日立製作所
児玉 耕太	立命館大学	畦地 真太郎	朝日大学
林坂 弘一郎	神戸学院大学	木川 明彦	宮城大学 大学院
Siti Norbaya	Universityi Teknikal	山室 達雄	ネクストロジスティクス
Yahaya	Malaysia Melaka	渡邊 大介	明治大学 大学院

### 2. 学生会員入会者

氏名	所属	氏名	所属
秋谷 拓弥	福島大学	荒牧 輝	立命館大学 大学院
高橋 里沙	福島大学	神谷 知貴	工学院大学 大学院
山口 優介	芝浦工業大学	三村 健斗	東海大学 大学院
右橋 俊毅	早稲田大学 大学院	重本 祐樹	ケンブリッジ大学
金高 健弥	東海大学 大学院	パークレー マッシュュー	西南学院大学 大学院
本嶋 武朗	芝浦工業大学 大学院	米田 智紀	近畿大学
菊地 啓太	立命館大学	竹下 友章	鹿児島大学 大学院
松本 博隆	早稲田大学 大学院	福澤 和久	愛知工業大学 大学院
井川 奨	青山学院大学 大学院	牧野 智宏	立命館大学 大学院
塚田 頼人	青山学院大学 大学院	蔣 思亮	朝日大学 大学院
大和 尚弥	日本大学 大学院		

### 3. 学生会員から正会員へ変更

氏名	所属	氏名	所属
新井 智	九州共立大学 教授	ヌサイバ マンソル	愛知工業大学
山戸 昭三	法政大学 大学院	パークレー マッシュュー	西南学院大学 大学院
紙谷 和典	日本推進建設(株)	アントニオ オリヴェイ	近畿大学
岩崎 之勇	立命館大学 MOT大学院	ラズィンガ レネ	

# 日本経営システム学会 研究発表申込書

## 2017年度 第59回全国研究発表大会

発表種類（研究、部会）（発表種類のいずれかを○でお囲み下さい）

発表セッション区分（一般セッション、学生セッション）（区分のいずれかを○でお囲み下さい）

口頭発表者会員種別（正会員、学生会員）（会員種別のいずれかを○でお囲み下さい）

会員連絡先

会 員 名			
所 属			
住所（勤務先・自宅）	〒		
連 絡 先	TEL	FAX	E-mail

論題および発表者

論 題		
ふりがな 発表者氏名（所属）	1. ( )	2. ( )
当日の口頭発表者には*を付す	3. ( )	4. ( )
研 究 部 会 名 (研究部会発表の場合)		代表者名: ( )

発表要旨（200字以内・ワープロプリント貼付可）

キーワード (必ず記入)					
-----------------	--	--	--	--	--

- 注：1) 大会プログラムは、この申込書のキーワードおよび発表要旨により編成いたします。
- 2) プログラム、論文集目次の論題および口頭発表者・連絡者は申込書の記載どおりに掲載いたしますので、明確に楷書にてご記入下さい。(ワープロプリント貼付可)
- 3) 論文集原稿締切日までに間に合わない場合は、プログラムに掲載され、発表時間も確保されておりますが発表取り消しとしますので、ご了承ください



# 日本経営システム学会

住所 〒169-0073 東京都新宿区百人町1-20-3 バラードハイム 703  
 TEL03-3371-5324・FAX03-3371-5185  
 E-Mail: keieisys@jams-web.jp